

平成23年12月20日

－研究科紹介－

「21世紀の人文学」構築をめざす文学研究科

1. 「21世紀の人文学」（基礎学＋応用学）の具体的展開

基礎学を堅持しつつ、時代に対応した応用学の構築をめざす。

○各分野の取り組み

地理学系

- ・現代インドのメガリージョン（広域大都市圏）と産業に関する調査研究  
[インドとの共同研究]
- ・自然災害の減災と復旧のための情報ネットワーク構築に関する研究  
[JICAとのプロジェクトによるヒマラヤ山麓活断層の日印共同研究]
- ・詳細DEM画像による日本列島周辺海域の変動地形学的研究

歴史学系

- ・北京大学、復旦大学との教員・学生間の活発な学術交流  
北京大学で大学院生間の研究討議を実施。（平成22年6月）
- ・三次、庄原地区の古墳研究－我が国最初の国家形成過程における重要な発見であり、国の史跡指定に向け準備中。

哲学系

- ・応用倫理学プロジェクト研究センターによる「和解」概念の研究

内海文化研究施設

歴史学・文学・考古学・地理学・文化財学など多分野による総合研究  
最近では厳島研究で大きな成果をあげている。

- ・瀬戸内海言語資料室（基礎学＋応用学）
- ・帝釈峡遺跡群発掘調査室（基礎学＋応用学）
- ・角筆資料研究室（基礎学）

新たな応用分野

- ・新たに応用する分野を展開するために、総合人間学講座（学際的研究）や  
国立大学では本学のみでの設置となる文化財学を創設。

2. 「21世紀の人文学」を支えるさまざまな取り組み

○新分野（グローバル人材育成、ソーシャルメディアの活用）を見据えた就職支援活動の実施

- ・マツダ株式会社グローバル人事部長の竹内雄司氏による「マツダのグローバル人材育成」の講演（平成23年11月28日開催）
- ・人気ブログ「ガ島通信」を運営している文学部卒業生のウェブジャーナリスト藤代裕之氏による就活セミナー（平成24年1月17日開催予定）

○最近の学生（卒業生）受賞者

- ・文学部3年片岡彩子 全日本学生フランス語弁論大会優勝（平成22年11月）

- ・文学部卒業生小山田浩子氏「工場」で新潮社新人賞受賞（平成22年11月）
- ・文学研究科PD濱井潤也 石橋湛山新人賞佳作を受賞（平成23年3月）
- ・文学研究科博士課程前期1年 浦上あさひ、文学部3年 柚田菜保子  
Hallo Deutschland! -ドイツ語学習者のためのコンテスト- 全国2位  
（平成23年12月）
- ・文学研究科博士課程後期1年 笠井恭子 徳川記念財団第9回徳川奨励賞  
受賞（全国5名のうちの1名）（平成23年12月）

## ○海外展開

- ・現在まで部局間協定11大学と締結し、教員や学生の交流を積極的に実施。
- ・ドイツミュンスター大学との部局間協定締結の予定。（平成24年3月）
- ・フランクフルト大学、フロリダ州立大学との部局間協定に向け交渉中。
- ・北京研究センターにおいて平成15年度より毎年留学生特別選抜試験を実施。毎年20名程度の留学生が入学。（本年度の留学生、7ヶ国85名）
- ・人間文化学分野においてテレビ会議システムを利用し、首都師範大学と授業や論文指導を共同で実施。
- ・海外の研究者との双方向の学術交流。特に、本研究科への外国人研究者の訪問、および講演会は日常的に実施している。

## ○社会連携活動

- ・文学研究科主催の公開講座「リテラ 21世紀の人文科学講座」を毎年開催。今年度は、財団法人広島市未来都市創造財団との連携事業として「司馬遼太郎を読む」というテーマで実施（約100名の参加）
- ・歴史学系教員中心の公開講座「地域アカデミー」、文学・語学系教員中心の公開講座「文藝学校」を今井書店と連携して毎年米子市で開催し、多数の市民から好評を得ている。
- ・ホームカミングデー部局企画の留学生による「世界とふれあう語学カフェ」を開催。
- ・広島交響楽団を招いての「リテラコンサート」を毎年開催。市民500名程度の参加があり、リピーターも多く、広く市民に親しまれている。（今年度は平成24年2月18日に「リテラウインターコンサート」開催予定）
- ・NHKの依頼を受け、東京大学川本隆史教授による「白熱教室 JAPAN」の公開録画を本研究科で実施。（平成23年6月）広島大学学生・市民と「ヒロシマで正義とケアを編み直す」という内容で正義について討論。

## ○帝釈峡遺跡群発掘調査室の活動

帝釈峡遺跡群は、広島県東部の庄原市から神石郡に広がる帝釈石灰岩地帯に位置しており、石灰岩の洞窟、岩陰を利用した数多くの石器時代遺跡が発見されている。遺跡群の発掘調査は、昭和37年の帝釈馬渡岩陰の第1次調査以来、毎年継続して実施しており、平成23年で50年を迎えた。

「帝釈峡遺跡群発掘調査室」は昭和52年から帝釈峡の地に開設され、現地調査の拠点となっている。国立大学でもこのような考古学の発掘調査実習施設が設置されているのは東京大学と本学のみである。毎年夏季に学生が考古学実習を行い、卒業生の中には文化財調査の専門員や学芸員となって活躍している者も多い。

この遺跡からの出土物が、他地域出土物の基準になるなど多大な成果をあげているが、他方、建物も老朽化しているので新たな展開が進捗中である。

### 【お問い合わせ先】

広島大学文学研究科	運営支援グループ	矢野
TEL:082-424-6604	FAX:082-424-0315	